

2022 年 11 月 21 日
日本船主協会 企画部広報室

海事講座や体験航海を大分県津久見市にて実施 ～海運の重要性を学校教育の場で～

当協会では、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船および海事施設等の見学会や出前授業など各種活動に取り組んでおります。

今般、当協会では、11 月 11 日（金）に九州運輸局大分運輸支局や九州海事広報協会などと協力し、大分県津久見市の津久見第一中学校 1 年生約 60 名を対象に、海事講座や体験航海を実施いたしました。

まず海事講座が実施され、九州運輸局大分運輸支局からのオリエンテーションに続き、当協会より、海運の役割や重要性について、生徒とのコミュニケーションも交えながら紹介しました。また、津久見港で活躍する商船の例として、「鉄洋丸」を挙げ、同船が何を運んでいるのかクイズを出題（正解は石灰石）し、津久見港と海運の関係性や津久見港が石灰石の一大移出拠点となっていることを説明しました。



当協会による説明の様子



使用した資料の一部抜粋

次に、津久見地区海運組合より、船籍やファンネルマーク、スラスターマークといった海運の知識などについて説明した他、大分県立海洋科学高校の在校生より、同校の紹介や同校ではどのような海技資格が取れるかなどについて話がありました。生徒より、講義全体を通しての感想として「海運が無くなると外国から物が届かなくなるかもしれないということが分かった」といった声が聞かれました。



津久見地区海運組合によるご説明の様子



大分県立海洋科学高校によるご説明の様子

海事講座後は、旅客船「マリンスター」に乗船し体験航海を実施しました。担当者の解説も聞きながら、津久見港内を周遊、海沿いに林立するセメント工場や、寄港しているセメント運搬船やガット船などを見学しました。天候にも恵まれ、生徒はこうした地域の産業に対する認識を再確認した様子でした。



当協会は今後とも、海事関連団体などと幅広く連携しながら、海事産業をより教育に取り上げてもらえるよう広報活動に注力してまいります。

以上